



Japan Music Education Society News Letter

第35号

No. 35

日本音楽教育学会ニュースレター

目次

| | |
|---|----|
| 【巻頭言】 1年を振り返って (吉田孝) | 2 |
| 1 報告・お知らせ | |
| 1-1 平成20年度第4回常任理事会報告 | 4 |
| 1-2 選挙管理委員会からのお知らせ | 8 |
| 1-3 編集委員会からのお知らせ | 8 |
| 1-4 学会賞審査委員会からのお知らせ | 12 |
| 1-5 国際交流委員会報告 | 13 |
| 1-6 日本音楽教育学会第40回大会へのご案内 (1) | 14 |
| 2 海外トピックス | |
| 2-1 日本音楽教育学会と韓国音楽教育学会との間で学会誌交換を開始 | 15 |
| 2-2 アメリカ発 音楽教育関連学会情報 | 16 |
| 3 新刊紹介 | |
| 3-1 音さがしの本 増補版 (今田匡彦) | 17 |
| 3-2 音楽力がアップする授業レシピ (高倉弘光) | 18 |
| 3-3 ティーチング・ブラス 管楽器指導の新しいアプローチ (前川陽郁) | 19 |
| 4 会員の窓 | |
| 4-1 福島コダライ合唱団 連続演奏会レポート (降矢美彌子) | 20 |
| 4-2 退職・転居・所属地区変更・理事交代のご挨拶 (村尾忠廣) | 22 |
| 5 事務局より | |
| 5-1 お知らせ | 23 |

編集後記

【巻頭言】

1 年を振り返って

会長 吉田 孝

坪能由紀子前会長から職を引き継いで1年が経過しました。当初は、多くの方からご心配をいただいたり、お叱りをいただいたりしましたが、なんとか順調に学会運営を続けてくることができました。ここで1年間を振り返って、成果と課題を明らかにしておきたいと思います。

第一の成果は、第39回大会の成功です。第39回大会は過去最高の研究発表者、参加者を得て大盛況のうちに終わりました。また大会運営も大変スムーズで気持ちのよいものでした。これは会場校の国立音楽大学の先生方、院生、学生の皆さんをはじめ、実行委員の先生方のお力で実現したものです。深く感謝いたします。なお、私は就任のあいさつに、「総会を欠席してそのあとの懇親会に出席される方もいらっしゃいます。懇親会のほうが会議より楽しいには決まっていますが、総会にもぜひ出席してほしいものです」と皮肉気味に書きました。しかし、今回の大会では総会にも例年になく多数の出席をいただきました。会員の皆様に感謝いたします。

第二は、学会事務局の移転です。前事務局は交通にも不便な上、非常に環境の悪い場所にありました。事務局員からも「恐怖を感じる」という声が出てきましたので、思い切って武蔵小金井の駅に近い場所に事務所を移転いた

しました。これはフットワークよい事務局長と会計担当理事の力で実現しました。以前に比べて若干コストはかかりますが、事務局員が働きやすいうえに、小さな会議も可能で学会員も気軽に立ち寄れる環境になっています。学会員の皆さんもぜひご利用ください。

第三は、海外との交流です。個人的には海外との交流は私の苦手な分野です。しかし、藤井浩基委員長を中心とする国際交流委員会の働きによって、学会としては海外との交流を深めることができました。とくに姉妹学会である韓国音楽教育学会との交流では、昨年8月に私自身が夏期セミナーに招かれ、日本の音楽教育事情について講演をいたしました。また、このセミナーには私のほか、藤井委員長と4名の常任理事が参加いたしました。本年の第40回大会には韓国音楽教育学会の閔庚勳（ミン・キョンフン）会長をお迎えすることになっています。また、学会のホームページでは、日本語、英語だけでなく、韓国語でも情報を提供しています。

第四は、会計の運用の改善です。これは会計年度と総会の時期のズレからおこるものですが、本学会では前年度の会計の決算の前に次年度の予算を決定するという変則的な会計運用を余儀なくされています。そのため当該年度の予算が年度当初から現実とは大きく

異なっているという矛盾が生じています。しかし、今年度からは総会において当該年度の予算を修正するという措置をとることにして、これらの矛盾が少なくなり現実的な運用をすることができるようになりました。

以上のほか、学会誌『音楽教育学』『音楽教育実践ジャーナル』も順調に発行することができています。夏期のワークショップも盛会でした。関係の役員、委員、会員の皆様に深く感謝する次第です。

しかし、一方で解決すべき課題も明らかになっています。

その一つは学会誌の問題です。順調に発行はできていますが、学会誌はたいへんな学会予算と編集委員の多大な労力を使って発行しています。『音楽教育実践ジャーナル』は質量ともに充実してきましたが、『音楽教育学』に関しては「研究論文」として掲載される論文数が非常に少ないという現実があります。例えば2005～2008年度に計8冊の『音楽教育学』が発行されましたが、「研究論文」として掲載されたものは5本に過ぎません。大会で70本を超える個人研究発表が行われる学会にしては、異常な事態であると言わざるを得ません。「音楽教育学は敷居が高い」という声も会員の間から聞こえてきます。この点は是非改善しなければなりません。

もう一つは学会運営全般に関わる問題です。学会は多くの出版物を出し、大会の他、ゼミナール、地区例会、ワークショップなど多くのイベントを開催しています。これは役員や委員の多

大な負担にもなっています。また、現在ただちに問題が起こっているわけではありませんが、組織の維持・運営そのものにも多大な労力と予算が使われています。

私は、学会の運営・組織はシンプルであるほどよいと思っています。また身の丈にあった活動をすべきだと思っています。そのために学会活動の見直しが必要だと思っています。会長諮問機関として学会活動検討委員会（加藤富美子委員長）を発足し、学会活動全般について見直しと検討をしていただいています。今年度の総会時には改革のための一定の方向をお示しできるのではないかと思います。会員の皆様方の声もお寄せ下さい。

課題は数多くありますが、もっとも重要なことは会員の皆様に、学会運営に少しでも関心を持っていただくことです。そして会員の意思が学会運営に反映するようにすることです。今年6月には会長と理事の選挙が行われます。高い投票率で次期の役員が選出されることを望みます。また、総会にもたくさんの方が出席されることを望みます。

なお、私事になりますが、私は本年3月で弘前大学を退職（定年ではありません）し、4月に関西学院大学に赴任します。会長任期途中の異動で、役員をはじめ関係者の皆様にはご不便をおかけしますがお許し下さい。

任期も残り1年になりましたが、最後までどうぞよろしくお願いいたします。

1 報告・お知らせ

1-1 平成 20 年度第 4 回常任理事会報告

日 時：平成 21 年 2 月 22 日（日）14:00-16:50

場 所：学術総合センター

出席者：小川，北山，齊藤，嶋田，杉江，田中，津田，三村，八木，吉田

【報告事項】

1. 会務報告（齊藤事務局長）

| | | |
|---------|-----------|-----------------------------|
| 平成 20 年 | 12 月 7 日 | 第 1 回学会活動検討委員会 |
| | 12 月 28 日 | 音楽教育学第 38 巻第 2 号〈通巻 76 号〉発行 |
| | 12 月 31 日 | ニュースレター第 34 号発行 |
| 平成 21 年 | 2 月 18 日 | 平成 20 年度第 1 回選挙管理委員会 |
| | 2 月 22 日 | 平成 20 年度第 4 回編集委員会 |
| | 2 月 22 日 | 平成 20 年度第 4 回常任理事会 |

2. 第 39 回大会（国立音楽大学）会計報告（阪井大会実行委員の報告資料にもとづき田中理事が報告）

平成 20 年度 第 39 回大会決算

【収入の部】

【支出の部】

| 費 目 | 金額（円） | 費 目 | 金額（円） |
|----------|-----------|-----------------|-----------|
| 本部からの準備金 | 700,000 | 施設使用料金 | 157,500 |
| ブース・広告収入 | 320,000 | 企画諸経費 | 167,862 |
| 臨時会員参加費 | 442,000 | 懇親会費用 | 422,500 |
| 懇親会費 | 572,000 | 実行委員・アルバイト弁当代 | 56,000 |
| 銀行利子 | 390 | アルバイト賃金 | 349,000 |
| 雑収入 | 3,032 | 大会本部事務費 | 44,080 |
| 収入合計 | 2,037,422 | 会議費（含 交通費・反省会費） | 98,976 |
| | | 通信費 | 6,930 |
| | | 銀行手数料 | 2,895 |
| | | 実行委員宿泊代補助 | 20,000 |
| | | 雑費 | 8,386 |
| | | 本部への返納金 | 703,293 |
| | | 実行委員会支出合計 | 2,037,422 |

3. 各委員会報告

3-1. 編集委員会(権藤編集委員長の報告資料にもとづき八木理事(編集委員)が報告)

(1) 学会誌編集の状況について、以下のように報告された。

・『音楽教育学』：第 38 巻第 2 号 (大会特集) を 1 月上旬発送済み。第 39 巻第 1 号に 1 件の論文を採択し、「研究動向」について 3 本の依頼原稿を企画。新規投稿 4 件について審議。

・『音楽教育実践ジャーナル』 vol.6-2 の特集投稿 4 件のうち 2 件を採択。3 月末発送予定。vol.7-1 特集「〈読譜〉にどう向き合うか」の原稿募集開始 (4 月末日締切)。1 件の新規投稿あり。

・『音楽教育学』の内容を検討し、「研究動向」「書評」等の記事を通して、会員の研究交流や情報交換に資する学会誌になるよう改善を図ることとした。

(2) 投稿規程について、①現在の編集委員会業務にそぐわない部分について改正し、委員の負担の軽減を図る、②書評論文を新たに位置づける、③HPに「執筆の手引き」「投稿の手引き」を掲載しダウンロードできるようにする、という 3 点の理由による改正案が報告された。報告に対し、主に執筆要領に関わる部分について幾つかの意見が出され、八木理事から編集委員会に伝えることとなった。

3-2. 国際交流委員会 (田中理事)

(1) 韓国音楽教育学会との学会誌交換は順調に行われている。事務局を保管場所および閲覧場所とする。ニュースレターやHPにて受け取った資料 (論文タイトルのリスト) を紹介していく方針である。

(2) 第 40 回大会 (広島) に韓国音楽教育学会ミン・キョンフン会長を招聘し、40 周年記念行事の一環として講演を依頼する。

(3) 学会ホームページ英語版 (更新) と韓国語版 (新規) を、2008 年 12 月 1 日付でHP上に掲載した。

3-3. 学会活動検討委員会 (八木理事)

・12 月 7 日の第 1 回検討委員会にて各委員に検討課題が割り振られ、それぞれの検討結果を 1 月末までに委員長に報告。その報告内容を受けて委員会で討議し、4 月末までに第 1 次答申としてまとめ、平成 21 年度第 1 回理事会で

提案する予定である。

3-4. 音楽文献目録委員会（関口委員の報告資料にもとづき齊藤事務局長が報告）

・第138回委員会（12月6日）において、①選定リスト138にもとづく掲載タイトルの選定、②音楽文献目録36発行（10月24日印刷製本完了）等についての報告、③委員会の業務内容、今後の方向性・可能性、新規事業の可能性についての審議、が行われた。

3-5. 選挙管理委員会（細田委員の報告資料にもとづき齊藤事務局長が報告）

・第1回選挙管理委員会（2月18日）において、小畑千尋、志民一成、中地雅之、細田淳子、山下薫子の5名が会長より選挙管理委員として委嘱されたことが報告された後、委員長に細田淳子氏、副委員長に志民一成氏が選出された。続いて、選挙手順、投票の締切と開票および結果の公表・承認、役割分担、今後の作業日程についての確認が行われた。

4. その他

・ニュースレター第35号について：目次が津田理事より提案され確認された。

3月末に発行予定。

・理事の変更について：東海地区の村尾理事が所属地区の移動に伴い、平成21年度より理事資格を失うため、村尾理事の残任期間の後任として、東海地区次点の新山王政和氏に依頼することが確認された。

・今後の予定について：資料にもとづき今後の会務予定が事務局長より報告された。

【審議事項】

1. 第40回大会について（三村理事）

・3月29日の地区例会で具体的に実行委員会の体制を検討するが、実行委員長を吉富理事、事務局長を三村理事、実行委員12～15名で遂行する予定。

2. 第41回大会候補地について（吉田会長、八木理事）

・関東地区の埼玉大学を会場校として開催することが提案され、了承された。

3. 新入会員及び退会者について（齊藤事務局長）

・新入会員計18名（正会員14名、学生会員3名、特別会員1名）、申し出退会者2名（うち1名は名誉会員）について了承された。

・平成21年2月18日現在、正会員数：1545名

新入会員（平成 20 年 11 月 7 日以降, 14 名）

| 会員番号 | 氏 名 | 所 属 先 |
|------|-------|----------------|
| 3591 | 飯泉 正人 | つくばみらい市立伊奈東中学校 |
| 3592 | 金子 陽子 | 北区立谷端小学校 |
| 3593 | 市原 隆靖 | 慶応義塾大学院（院生） |
| 3594 | 石原 孝一 | 兵庫教育大学大学院（院生） |
| 3595 | 松浦 光男 | 東京ニューシティ管弦楽団 |
| 3596 | 大野はな恵 | 東京大学大学院（院生） |
| 3597 | 寺井 郁子 | 東京福祉保育専門学校 |
| 3598 | 松井奈都子 | 日本福祉大学 |
| 3599 | 足立 広美 | 創価大学教育部 |
| 3600 | 後藤ゆかり | 草苑保育専門学校 |
| 3601 | 中桐 實 | くらしき作陽大学 |
| 3602 | 森 薫 | 東京学芸大学大学院（院生） |
| 3603 | 松村 佳美 | 北海道教育大学大学院（院生） |
| 3604 | 山本由紀子 | 総合研究大学院大学（院生） |
| 3605 | 芳賀 均 | 枝幸町立枝幸小学校 |

学生会員（平成 20 年 11 月 7 日以降, 3 名）

| 会員番号 | 氏 名 | 所 属 先 |
|------|-------|---------------|
| B-53 | 佐野 智美 | 鳴門教育大学 |
| B-54 | 寺内 大輔 | 玉川大学教育学部通信教育部 |
| B-55 | 太田 智美 | 国立音楽大学 |

特別会員（平成 20 年 11 月 7 日以降, 1 名）

| 会員番号 | 氏 名 | 所 属 先 |
|------|------|--------|
| D17 | 崔 明子 | 南昌航空大学 |

4. その他

- ・ニュースレターの内容について：「会員の窓」の扱いについて協議し、学会に対する意見や所属移動など、会員から自主的に投稿されたものを掲載することとした。
- ・会員名簿について：5月の理事会にて検討することとした。
- ・学会発行誌掲載論文の電子化について：著作権は執筆者本人が有することが確認された。
- ・大会における院生フォーラムについて：院生の自主的な活動と位置づけることが確認された。

1-2 選挙管理委員会からのお知らせ

選挙管理委員会委員長 細田淳子

このたび、平成 21 年度で任期を終える会長・理事の選挙を行うに当たり、小畑千尋、志民一成、中地雅之、細田淳子、山下薫子が選挙管理委員として会長より委嘱を受けました。また、委員の互選により、細田が委員長、志民が副委員長に選出されました。委員一同、会員のみなさまのご協力をいただき、使命を全うしたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

今回の選挙は、『音楽教育学』第 36 巻第 2 号および本学会ホームページに掲載されている、会則、細則、選挙管理委員会規定、選挙実施要領に従って実施いたします。本選挙によって、学会にとってふさわしい会長・理事が選出されますよう期待いたしますとともに、学会のさらなる発展に向けての、会員各位の見識ある投票をお願い申し上げます。

なお選挙の実施方法等の詳細に関しては、6 月中旬に、投票用紙等と一緒に郵送いたします選挙公報でお知らせする予定です。また選挙についてご不明の点がありましたら、選挙管理委員会(事務局内)までお問い合わせください。

E-mail : onkyoiku@remus.dti.ne.jp

選挙管理委員会では、公正で正確な選挙事務を進めるよう努力いたしますので、会員各位のご理解とご協力をお願いいたします。

1-3 編集委員会からのお知らせ

編集委員会委員長 権藤敦子

1. 1月上旬までに投稿された『音楽教育学』研究論文 3 本、『音楽教育実践ジャーナル』自由投稿 1 本について、査読を経て、第 4 回編集委員会（2 月 22 日）で審議を行いましたが、残念ながら今回は掲載に至りませんでした。『音楽教育学』に新たに投稿された研究論文 1 本については、査読手続きにはいりました。

2. 研究論文、研究報告、実践論文、実践報告など、学会誌 2 誌ではさまざま

な種類の論考を掲載しております。ご自身の研究題目にもっともふさわしい研究方法で、的確にその内容を伝える論述をお願いいたします。

3. 『音楽教育学』には、「研究論文」や「研究報告」のほかに「研究動向」「書評」「反論」等を掲載することになっていますが、論文や報告以外の種類はこれまで限られた数の原稿しか寄せられておりませんでした。編集委員会では、音楽教育研究を活性化できるような情報を提供し、会員の研究交流に貢献できる学会誌のあり方について検討を続けておりますが、その取り組みの第1歩として「研究動向」「書評」を充実させることにしました。

「研究動向」については、6月発行の『音楽教育学』39-1号に3本の論考を掲載する予定です。「書評」についても2本の原稿を予定しています。

「書評」は従来2ページを上限としていましたが、新たに「書評論文」という種類を設け、上限を6ページとする予定です。書評とは、過去5年以内に刊行された、音楽教育学の発展に寄与すると思われる図書および視聴覚資料を対象とします。その図書や資料を手にしていない会員にもわかるように全体像と価値、意義が示され、あわせて、著者の主張を正確に紹介しながら、それに対する評者の見解が提示されます。「書評論文」の場合、論文としての体裁にふさわしい分量と内容を備えていることが求められます。

4. 2008年度の『音楽教育学』『音楽教育実践ジャーナル』への自由投稿件数は全部で14本、特集投稿が9本でした。会員1500名を擁する学会であり、全国大会での口頭発表が100件を数えるのに比して、これは非常に少ない数と言わざるを得ません。皆様の研究成果をぜひ学会誌にお寄せください。編集委員会では、現在、投稿規程の見直しとあわせて、投稿の手引きを学会ホームページに掲載できるよう準備しております。皆様の積極的なご投稿をお待ちしています。

5. 『音楽教育実践ジャーナル』では毎回特集テーマにそった原稿を募集しております。2009年8月末に発行されるvol.7 no.1(通巻13号)の投稿締切は4月末となります。お知らせの最後にある原稿募集の記事をご覧ください。また、2010年3月末に発行されるvol.7 no.2(通巻14号)の特集テーマと趣旨を5月にホームページに掲載する予定です。

6. 次回の編集委員会は2009年5月中旬に開催いたします。

『音楽教育実践ジャーナル』 vol.7 no.1 (通巻13号)

特集・原稿募集

特集テーマ：

「<読譜>にどう向き合うかー義務教育課程9年間を見通す中でー」

『音楽教育実践ジャーナル』 vol.7 no.1 (通巻13号) の特集に向け、下記の要領で原稿を募集しています。テーマ設定の趣旨をご理解いただき、多数のご投稿をお待ちしております。

授業実践の場で読譜をどう扱うかについては、音楽科教育における大きな課題です。読譜指導に関しては、学習指導要領にその指針と達成すべき目標が示されているにもかかわらず、それぞれの実践現場での指導の実態には、かなりのばらつきがあるのが現状です。また、その学習指導要領自体、読譜指導に関する方針が、必ずしも一定であるとは言えません。そこには、具体的に楽譜をどう読むのかという、唱法の問題もからんでいます。一方で、読譜指導が果たして学ぶべき必須のものであるのかどうかという議論もあります。とくに、さまざまなジャンルの音楽を取り扱うようになってきた今日の音楽教育では、「楽譜」の有する意味や役割に対する考えもさまざまです。このように、読譜指導は、その方法論を検討する一方で、音楽教育が何を目指すのかという根本的な問題から考えていく必要があるでしょう。また、読譜の能力とは、決してたやすく習得できるものではありません。国語科における読み書き能力や数学科における計算能力が小・中学校の学習を通して習得されるように、読譜指導においても、これをきちんとした学力あるいはリテラシーとして習得させようとするなら小・中学校の連携は必須の課題でしょう。

本特集では、音楽科教育における読譜指導を、それがどうして必要なのかという根本的な問題から、個人のライフコースにおける読譜能力獲得の意味につ

いてなど、さまざまな視点から考えてみたいと思います。その上で、歌唱、器楽、創作のそれぞれの授業を通してどのような読譜能力を習得することができるのかも考えなくてはなりません。論文のみならず、読譜指導におけるさまざまな実践例なども広く募りたいと思います。

(投稿時のお願い)

- ・ 投稿の際には特集の募集原稿であることを必ず明記し、下記送付先にご郵送ください。

【vol.7 no.1 (通巻13号) 特集投稿送付先】

〒739-8524

東広島市鏡山1-1-1

広島大学大学院教育学研究科

初等カリキュラム開発講座榎藤研究室気付

日本音楽教育学会事務局〔編集担当〕あて

(お問い合わせ) jmesedit@hiroshima-u.ac.jp

* 『音楽教育実践ジャーナル』特集投稿以外の原稿の送付先は従来通り事務局本部(私書箱)です。

- ・ 論文、実践報告、提言等、種別の希望がありましたらお知らせください。ただし、審議の結果、希望通りにならない場合もあります。
- ・ 書式、字数等は『音楽教育実践ジャーナル』投稿規程をご参照ください。図表、写真等も挿入箇所のスペースを文字数に換算して字数に含めます。
- ・ 原稿が届いたら事務局より受領通知をお送りしています。万一10日以上経っても通知がない場合は、お手数ですが事務局までご連絡ください。
- ・ 採択された原稿については、編集委員会から5月末日までに投稿者に連絡します。審議の結果によっては、修正をお願いする場合があります。
- ・ 特集投稿締切：2009年4月末日必着

1-4 学会賞審査委員会からのお知らせ

審査委員長 吉田 孝

去る2月23日に学会事務局において第1回学会賞第1回審査委員会が開催されました。

日本音楽教育学会賞は、日本音楽教育学会創立40周年記念として設置されるものです。規程では「2年に1回、学会賞の受賞者を決定する」、「過去2年間に『音楽教育学』及び『音楽教育実践ジャーナル』に掲載された研究論文の中から1編を選ぶ」とされています。また「審査委員は、当該期間の学会誌編集委員長、学会誌編集委員で常任理事、理事の経験者の中から、研究分野・方法を考慮して、会長が6名（会長を加え7名）を指名し、常任理事会で決定する」となっています。

ただし、第1回学会賞については、「2005年度から2008年度にかけて（過去4年間）『音楽教育学』及び『音楽教育実践ジャーナル』に掲載された研究論文の中から1編を選ぶ」とされており、次の審査委員で審査を行うことがすでに了承されています。

小川 容子（2007年度編集委員長）
木村 次宏（2005-2006年度編集委員長）
権藤 敦子（2008-2009年度編集委員長）
坪能由紀子
村尾 忠廣
安田 寛
吉田 孝（2008-2009年度会長）

第1回審査委員会には、小川、木村、権藤、村尾、安田、吉田、の各委員が出席し（坪能委員は日程の都合がつかず欠席）、次の点が決定されました。

- (1) 審査委員長を現会長の吉田とする。
- (2) 受賞対象の論文としては、当該期間に『音楽教育学』に「研究論文」として掲載された論文とする。ただし、『音楽教育実践ジャーナル』に掲載された論文については、「研究論文」の規定がないため、審査委員会において研究論文と判断されたものも受賞対象とする。
- (3) 第2回審査委員会を2009年5月に開催し第1回学会賞を決定する。

本年8月に発行されるニューズレター上で第1回学会賞の発表ができる予定です。

1-5 国際交流委員会報告

国際交流委員会委員長 藤井浩基

1. 韓国音楽教育学会との学会誌交換とその保管および閲覧について

韓国音楽教育学会との学会誌交換は、2008年10月以降、順調に続いている。日本音楽教育学会事務局からは、『音楽教育実践ジャーナル』通巻第9, 10, 11号（各2冊）に続き、『音楽教育学』の最新号を送り、韓国音楽教育学会からは『음악교육연구』（音楽教育研究）第32, 33, 34集（各2冊）が届いた。

国際交流委員会では、交換資料の保管および閲覧について、次のように方針をまとめた。

- (1) 交換資料の保管場所は事務局とする。
- (2) 会員の閲覧希望があれば、直接、事務局に出かけて閲覧してもらう。
- (3) ニュースレターやホームページ等を利用し、受け取った資料の内容（論文名一覧程度）を紹介する。

2. 第40回大会（広島大会）への韓国音楽教育学会ミン・キョンフン会長招聘について

すでに日本音楽教育学会からは、韓国音楽教育学会のミン・キョンフン会長に、招聘の意向と日程を伝えており、今後、国際交流委員会で具体的な調整を行なっていきたい。なお、ミン会長招聘にかかる旅費の確保とミン会長に依頼する講演等の内容および時間等について、常任理事会、大会実行委員会でご検討をお願いしたい。

3. 学会ホームページ英語版の更新と韓国語版の新規掲載について

2008年12月1日付で、学会ホームページに英語版（更新）と韓国語版（新規）を掲載した。

1-6 日本音楽教育学会第 40 回大会へのご案内（1）

平成 21 年 10 月 3 日（土）・4 日（日）

会場：広島大学

大会実行委員長 吉富功修（環太平洋大学）

同 事務局長 三村真弓（広島大学）

来年度の全国大会を、広島大学で開催することになりました。第 40 回記念大会ということもあり、学会主催の記念行事も計画されていますし、大会実行委員会企画のプログラムも充実したものをご提供しようと思っております。

広島大学は、現在は、医学部と歯学部以外は東広島市に統合され、国立大学法人としては、屈指の学生数と施設を有しています。広大なキャンパスには落ち着いた煉瓦色で統一された建物群が建ち並び、広々とした敷地のあちらこちらに緑が点在し、非常に美しいキャンパスです。キャンパス内には、1,000 人を収容できるサタケメモリアルホール、学士会館（宿泊施設）、La Boheme（リーガロイヤルホテル広島直営レストラン）、la place（マーメイドカフェ広島大学店）などの施設があり、開かれた大学として、地域の人たちの文化交流の場、憩いの場としての機能も果たしています。お天気のいい日などは、お年を召したご夫婦や、子ども連れの若いお母さんたちが、キャンパス内を散策している姿をよく見かけます。

JR 西条駅からバスで約 20 分、新幹線東広島駅からタクシーで約 10 分とやや田舎にはありますが、キャンパスの北側には大型店舗が位置し、飲食店も数多くあり、学生の街として少しずつぎやかになりつつあります。また、東広島市から西へ JR で約 35 分に位置する広島市は、世界遺産の宮島や平和公園を有する観光都市です。観光もかねて、たくさんの方々が参加してくださることを願っています。心よりお待ちしております。

なお、詳細につきましては、次号で紹介させていただきます。

2 海外トピックス

2-1 日本音楽教育学会と韓国音楽教育学会との間で学会誌交換を開始

日本音楽教育学会では、今年度より韓国音楽教育学会と、音楽教育に関する資料交換を定期的に行なうことになりました。日本音楽教育学会からは学会誌『音楽教育学』と『音楽教育実践ジャーナル』を、韓国音楽教育学会からは学会誌『音楽教育研究』（음악교육연구）（年2回発行）を相互に交換します。昨年10月には、最初の交換が行なわれ、日本側から2種類の学会誌を送るとともに、韓国側から2007年度以降に発行された『音楽教育研究』第32～34集が届きました。

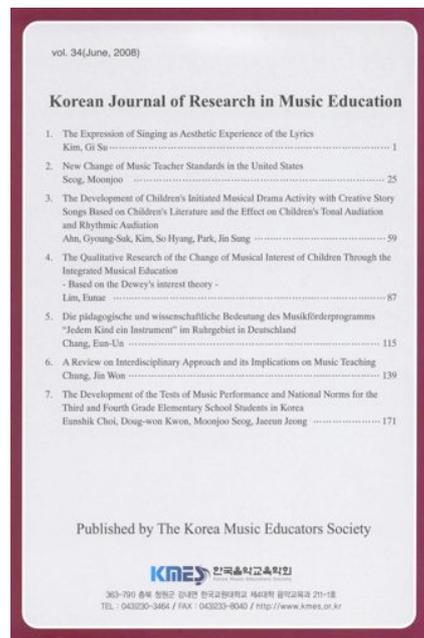
『音楽教育研究』は、音楽教育の理論や実践に関する研究論文が多数収録されており、韓国の音楽教育の最新動向を把握するには大変参考になる資料です。本文はハングルで、要旨は欧文で書かれています。

『音楽教育研究』の内容については、収録された論文の欧文タイトルを学会のホームページに掲載し、随時、皆様にお知らせします。また、届いた資料は、学会の事務局に保管します。希望があれば、事務局内で閲覧することもできますので、事務局にお問い合わせ下さい。

韓国音楽教育学会とは、2003年に姉妹学会として交流協定を結んで以来、さまざまな研究交流が行なわれています。学会誌の交換を通して、互いの研究動向や情報を共有することで、これまで以上に両学会の研究交流が深まるものと期待されます。



『音楽教育研究』（음악교육연구）
第34集 2008年6月発行



(藤井浩基：島根大学)

2-2 アメリカ発 音楽教育関連学会情報

実体経済が益々厳しくなるアメリカは、今年になり、期待を委ねる存在として、初の黒人大統領、バラク・オバマを迎えた。大統領は芸術文化支援を明言し、創造性や芸術の力を多面的に評価し政策に盛り込んでいる。イギリスでも芸術教育に力を入れてきているようであるが（「Find Your Talent」）、文化政策はもはや芸術や文化のためだけのものではなさそうである。教育、外交、国益のために、芸術教育が注目されはじめている。そうした潮流は世界に広がりそうだ。

アメリカで開催される今後の大会等について主要なものを以下に紹介する。

1) 2009 アメリカ教育研究大会
AERA (The American Educational Research Association) Annual Meeting

期間：2009年4月13日～17日

場所：サンディエゴ，カリフォルニア

大会テーマ：“Disciplined Inquiry: Education Research in the Circle of Knowledge”

ホームページ：www.aera.net

アメリカで最大の教育研究団体の大会。音楽教育も含む。5会場で同時に開催される。

2) 第5回 国際質的研究学会

The Fifth International Congress of Qualitative Inquiry

期間：2009年5月20日～23日

場所：イリノイ大学

大会テーマ：“Advancing Human Rights Through Qualitative Inquiry”

基調講演：

Antjie Krog (ウェスタンケープ大学)

Frederick Erickson (カリフォルニア大学)

ホームページ：www.icqi.org

3) SRME リサーチシンポジウム II

SRME (The Society for Research in Music Education) Research Symposium II

期間：2009年6月20日～21日

場所：ワシントンD.C.

(近藤真子：オークランド大学)

3 新刊紹介

3-1 音さがしの本：リトル・サウンド・エデュケーション増補版

R.マリー・シェーファー，今田匡彦著
春秋社，全 161 ページ，1800 円＋税
2009 年 1 月刊行
ISBN: 978-4-393-93539-2



サウンドスケープ思想の提唱者で、カナダを代表する作曲家 R.マリー・シェーファーと今田匡彦の共著により 1996 年に出版された『音さがしの本：リトル・サウンド・エデュケーション』は 5 刷まで版を重ねて来たが、今回新たに増補新版として再刊行されることになった。

2008 年 10 月に執筆されたシェーファー自身の手になる巻頭エッセイでは、サウンド・エデュケーションについての彼の考え方が、アメリカのラジオ・プロデューサー、トニー・シュバルツや、武満徹と歩いた京都の公園でのエピソードを交えて簡潔に示されている。

巻末には、今田の手になる実践例『最初の音楽（オンガク）を探るために』と、エッセイ『音楽家としてのマリー・シェーファー』が新たに掲載された。

実践例では、弘前大学教育学部での授業「小専音楽科教育法」、オーストラリア、ジャマイカ、香港、シンガポールなど海外の大学で行ってきたワークショップを基盤に、[最初のオンガクを

探る]を全体テーマとして 10 回分の授業 (①おしゃれについて，②サウンド・ウォークとゲーム，③紙を使って I，④紙をつかって II，⑤名前を使って，⑥声によるパフォーマンス，⑦リズム・エクスチェンジ，⑧振り付け I，⑨振り付け II，⑩コンビネーション) が提示されている。

サウンドスケープ，サウンドスケープ・デザインの概念が環境問題を包括し社会的であったために，彼の思想と音楽，或いは音楽教育との有機性が論じられることはこれまで実はあまりなかった。エッセイでは，このような問題を踏まえ，サウンドスケープと音楽，音楽教育との繋がりを，ピアノ演奏スタイルでの〈ノイエ・ザッハリヒカイト〉，クロード・ドビュッシーの音楽を参照しつつ，〈肌理〉をキーワードとして明確化しようとした。

詳細は以下のサイトにて：

<http://www.shunjusha.co.jp/detail/isbn/978-4-393-93539-2/>

(今田匡彦：弘前大学)

3-2 わかるからおもしろい！ 音楽力がアップする授業レシピ ～おいしいドルチェをどうぞ

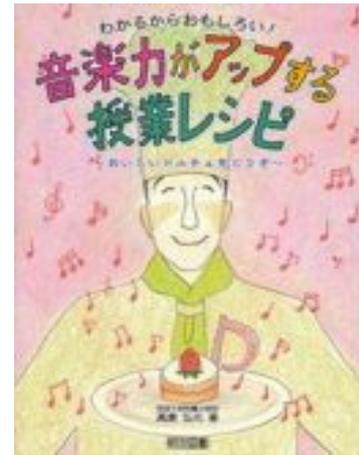
高倉弘光著

明治図書，全 130 ページ

2,360 円＋税

2008 年 10 月刊行

ISBN978-4-18-771519-3 C3037



本書は、小学校教育における音楽科の授業づくりについて著したものである。

昨年3月に新しい学習指導要領が告示された。その中で最も注目されているのが〔共通事項〕であろう。小学校の音楽科で指導する内容領域は4つ。歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞がそれであるが、その4つの内容において共通に指導すべき事項を示したのが〔共通事項〕である。授業を通して子どもが音楽的な何を学ぶのかを、これまでも増して明確にしなければならないことが謳われたわけだ。また、音楽づくりや鑑賞の授業の充実も今回の改訂では大きなテーマとなっている。

しかし、実際にはまだ新しい学習指導要領を実現した実践事例の紹介が少ない。そこで、本書では新しい学習指導要領を志向した実践事例を数多く紹介することとした。その際、どんな音楽活動を通してどのような音楽的な力をつけるのかを明確に示した。また、

1時間、あるいは1題材の展開について読者が容易にイメージできるよう、教師の発問、指示とそれに対する子どもの反応をライブ形式で紹介した。本書に書かれている言葉を遣ってそのまま授業を進められるはずだ。このことは「授業レシピ」という書名にも反映されている。加えて、教師と子どもの言葉によるやりとりを示したのは、音楽科における言語力の育成についての提案という意図もある。

【もくじ】クラスづくりをしながら音楽力もつく！とっておきの「ゲーム集」／体を使って「楽典」をおぼえちゃおう！／ポジティブな「鑑賞」のススメ／アプローチの工夫で「音楽づくり」だつてへっちゃら！／授業を飛び出せ！音楽科発のコラボなプラン／クラスみんなの「表現」が輝くとっておきのシナリオ劇&『ラストソング』

(高倉弘光：筑波大学附属小学校)

3-3 ティーチング・ブラス ー管楽器指導の新しいアプローチ

クリスティアン・ステーンストロプ著
前川陽郁，西田和久訳
作品社，A5判 159 ページ
2,940 円（税込）
2008 年 11 月 15 日刊行，
ISBN 978-4-86182-220-9



デンマークのトランペット奏者で、オーフスにある王立音楽院の准教授のクリスティアン・ステーンストロプ Christian Steenstrup 氏による *Teaching Brass* の改訂第二版 (2007) を、私と同じ大学の教員でチューバ奏者の西田和久氏と共同で翻訳し、西田氏が解説を加えました。チューバの名プレーヤーにして優れた教育者であったアーノルド・ジェイコブス Arnold Jacobs 氏の教育法が重要な基礎となっており、また、ヴァイオリン教育の鈴木鎮一氏の考え方も、大きな役割を持っています。

この本は、金管楽器奏法の原理の面から教育を問い直している内容で、個別の技術論よりも、あらゆる音楽演奏に重要である、想像力によって音楽イメージを持つことと技術とをしっかりとつなぐことに重点が置かれています。演奏の習得や教育には、身体や楽器の実際の働きと、それについて感じていることとがしばしば一致しないという問題があり、この点を十分に考慮していない指導法も見受けられますが、この本では、人間に何ができて何ができないかなど、演奏時に奏者が行なっていることの根拠づけをした上で教育法を考えています。ですから、実践ですぐに役立てようというより

はむしろ、どのように演奏，教育すべきかを自ら考えるときに貴重な情報を与えてくれます。

呼吸のことが多くの部分を占めており、初めは偏っているような感じもしたのですが、読み進めていくうちに、管楽器演奏にとって呼吸がどれほど重要であるか納得しました。その意味では、この本の内容は木管楽器演奏にもプラスになると思いますが、木管楽器固有のアンブシュアやリード、フィンガリングのことなどには言及されていません。また、この本の内容は発声の理論に多くを負っており、その中には、リチャード・ミラー Richard Miller 氏の *The Structure of Singing: System and Art of Vocal Technique* (1986) などがあります。翻訳に当たって、ミラー氏の著書もいくつか読んでみたところ、理論的にしっかりした、多くのことを教えられる内容ですので、こちらも、本訳書を通してわかることにとどまらず、全体が翻訳などのかたちで紹介されれば意義深いと思います。

なお、目次などを当方のホームページ (<http://homepage3.nifty.com/maekawa-haruka/>) で紹介しています。

(前川陽郁：大阪芸術大学)

4 会員の窓

4-1 福島コダーイ合唱団：バルトーク作曲『児童と女声のための合唱曲集』連続演奏会レポート

福島コダーイ合唱団は、ハンガリーの合唱指揮の第一人者ウグリン・ガールボル氏を招聘して、2008年8月11日（福島市音楽堂大ホール）、8月12日東京トッパンホールで、バルトーク作曲『児童と女声のための合唱曲集』の演奏会を行なった。演奏に先立って、ウグリン氏によるバルトークについての講演があった（通訳：降矢美彌子）。サボー・ミクローシュによる重要な訂正の含まれる2006年改訂の新訂版による原語全曲演奏で、日本の合唱の歴史に1つの足跡を刻むものとなった。

バルトークの『児童と女声のための合唱曲集』は、1935年に作曲された。コダーイ・ゾルターンは、この作品集の出版にあたって「ハンガリーの子どもたちは、自分達が生涯にわたって影響を受けるに違いない贈り物を1936年のクリスマスに受け取ったことをまだ知らない。」という文章から始まる論評を書いた。

論評は、次のように続けられる。「バルトークの音楽の語り口は、子どもたちがすぐに理解でき、身近に感じる語り口なのだ。」「彼は、白髪が混じっていても、子どもの精神が残っている大人として、子どもたちを仲間として尊重している。」「バルトークが子どもたちに語りかけていることは、彼が大人

に対して語りたい事柄なのだ。この作品集は、大人の世界に対しても芸術性に満ちていて、高い価値をもっている。」

この作品集について作曲家の林光は、公演チラシに以下の文を寄せた。「この小曲集は、脱・長短調の和声、簡潔のきわみともいえる対位法によって、ハンガリー民族音楽の源流からはるか未来までを一直線に見とおしているかのようだ。」

作品集には、27曲のア・カペラ合唱曲が収められている。それぞれの作品の演奏時間は短く、3分を越える作品はない。しかし、これらの27曲には、人間と自然のあらゆる営みが象徴され、バルトークの多様な作曲技法とあいまって、珠玉の名品となっている。もし、この作品集がなかったら、21世紀の合唱曲のレパートリーは、どんなに貧しくなってしまうだろう。

福島コダーイ合唱団（音楽監督：降矢美彌子）は、1987年に創立された教員合唱団で、福島を中心に活動しているが、宇都宮、仙台、東京、藤沢、金沢、佐賀など各地でも演奏会を行なった。創立以前からハンガリーのコダーイの理念に学び、コダーイ、バルトーク、バールドシュなどハンガリーの現代作曲家の作品を中心的なレパートリーとしながらも、グレゴリオ聖歌、

ルネサンスの合唱曲から、日本、アジアなどの民俗音楽、平井澄子や本間雅夫の作品など多様な音楽を歌い踊る多文化合唱団である。ハンガリーを始め、フィンランド、オランダ、マレーシア、フィリピン、アメリカに海外演奏旅行を行なって高い評価を得ている。

音楽監督の降矢は、この合唱曲集がたくさんの日本の児童・女声合唱団にも演奏が可能となることを願って、楽譜翻訳出版と演奏（指揮：ウグリン・ガーボル、演奏：福島コダエイ合唱団）とハンガリー語の発音 CD（発音：ウ

グリン・ガーボル）のリリースを行った。なお、合唱曲集の最終曲「神様がともにおられますように！」（Isten veled!）は、2009年度の合唱連盟の合唱コンクールの課題曲の1つとなった。

バルトーク作曲『児童と女声のための合唱曲集』の演奏と発音の注文フォーム：
<http://www1.interq.or.jp/posta/fkc/index.htm>

（降矢美彌子：帝京平成大学）



4-2 退職・転居・所属地区変更・理事交代のご挨拶

日本音楽教育学会理事 村尾忠廣

私事で恐縮ですが、38年間奉職いたしました愛知教育大学を今年3月に退職いたしました。学会で発表する時にも新聞、テレビなどのマスメディアに紹介される時にも私には常に愛知教育大学の肩書きがついていました。それはまるで私の体の一部であるかのように38年の間ずっと肩についていたのです。今それが、剥がされるように外れてしまいました。ちょっと寂しい気持ちもありますが、それ以上に何かしら開放されたような心地よさがあります。

4月からは奈良の帝塚山大学に移ることになり、住所、学会所属地区も変わるようになります。所属地区の変更をしますと、任期半ばですが学会規定にしたがい理事も交代することになります。副会長、会長の時期から数えますとずいぶん長い間学会の役職についておりましたから、こちらの方もちょっと解放された気分です。4月から交

代する新理事につきましてもこれまで同様よろしく願いいたします。

新住所は奈良公園に隣接した「奈良市高畑町 654-12」です。新薬師寺、写真美術館のすぐ近くで、東大寺、春日大社、興福寺も散歩道（通勤路）になります。環境が変わって、今は見るもの聞くものすべてが新鮮です。この新鮮さを失せさせることのないようにこれからもいつそう感性をしなやかにしつつ研究・実践・創作活動に邁進してゆきたいと思っております。新アドレスは、murao@tezukayama-u.ac.jp (office)とuski53834@aris.eonet.ne.jp (home)です。名誉教授となりましたので愛知教育大学の旧来のアドレスも使用可能ですが、徐々に開くことは少なくしていこうと思っております。新アドレスの方に変更していただければ幸いです。今後とも何かにつけてよろしく願いいたします。

【お願い】

会員の皆様からのさまざまな情報をニューズレター担当チームまでお寄せください。「新刊紹介」については自薦、他薦を問いません。また、「会員の窓」にも各地からの情報をお待ちしています。次号への掲載を希望される方は事務局までお問い合わせください。

5 事務局より

5-1 お知らせ

1) 年会費未納の方には「払込取扱票」を同封しますので、早めの振り込みをお願いします。2年間滞納しますと自然退会となり、原則として2年間は再入会できなくなりますのでお気をつけください。

2) 住所変更された方は、学会事務局に FAX または E メールでお知らせください。

3) 最新の情報は学会ホームページに掲載します。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jmes2/>

4) 平成21年4月1日より、事務局の開局日を月・水・金の10:00～16:00とします。

1年間、事務局の業務にご協力をいただきありがとうございました！

……【編集後記】……

日本の花と言えば桜が定番、本号がお手もとに届くころは桜が満開の地域も多いことでしょう。日本で一番早い桜の開花は沖縄県の本部の緋寒桜で1月上旬、最も遅いのは北海道の旭岳の千島桜で6月上旬とか。日本には雑種も含めて430種の桜があるそうです。日本古謡「さくらさくら」は、もともとは箏曲ですが、さまざまな楽器で演奏されたCDが発売されています。ヨーヨー・マのチェロ、ランパルのフルート、ハンドベル、二胡、変わったところではサヌカイト（かんかん石）の演奏もあります。それぞれ味わいがあるってよいものです。じっくりと教材研究をして授業づくりをしたいと思いつつも、なかなか思うにまかせぬこのごろです。

早いもので、今年度最後のニュースレターの発行となりました。もっと会員の方の声をニュースレターに反映させていきたいと考えております。会員の皆様の投稿や情報提供をお待ちしております。次年度もよろしく願い申し上げます。

(津田正之, 北山敦康)

……

<平成 20~21 年度 日本音楽教育学会役員>

会 長：吉田 孝

副 会 長：北山敦康

常任理事：齊藤忠彦（事務局長），嶋田由美・津田正之（総務），田中健次（会計）

小川昌文・杉江淑子・三村真弓（企画），八木正一（編集）

理 事：尾藤弥生（北海道），降矢美彌子（東北），佐野 靖・筒石賢昭

坪能由紀子・藤沢章彦・本多佐保美（関東），村尾忠廣（東海）

安田 寛（近畿），吉富功修（中国・四国），岩崎洋一（九州）

会計監事：奥 忍・今川恭子

事 務 局：亀山さやか・山本由紀子・徳山菜央・光平有希

* 村尾忠廣理事の所属地区の移動に伴い，平成 21 年 4 月 1 日より，東海地区担当理事は新山王政和氏（平成 19 年理事選挙にて次点）となります。

<日本音楽教育学会事務局>

【事務局本部】

所在地：〒184-0004 東京都小金井市本町 5-38-10-206

日本音楽教育学会事務局

TEL&FAX 042-381-3562

E-mail onkyoiku@remus.dti.ne.jp

私書箱：〒184-0015 東京都小金井郵便局私書箱 26 *郵便物は私書箱へ

開局日：月・水・金 10:00~16:00

【事務局編集担当】

所在地：〒739-8524 広島県東広島市鏡山 1-1-1

広島大学大学院教育学研究科初等カリキュラム開発講座

権藤研究室気付 日本音楽教育学会事務局〔編集担当〕

E-mail jmesedit@hiroshima-u.ac.jp